

手話でつながる、みんなが暮らしやすいまちへ

手話や多様なコミュニケーションへの理解を広げ、誰もが安心して暮らせる「共生社会」を目指します。



手話



筆談



文字・情報機器



会話

条例で大切にすること

①

互いを尊重する

障がいの有無で分け隔てず、互いの人格と個性を尊重します。

②

手話を「言語」として理解する

手話は音声言語とは異なる独自の体系を持つ言語です。
ろう者が大切に受け継いできた文化でもあります。

③

伝え合う方法を広げる

手話だけでなく、筆談や文字など、一人ひとりに合った
コミュニケーションを大切にします。

市・市民・事業者、それぞれの役割

市



必要かつ合理的な配慮を行い、
施策を進めます。

市民



施策への理解を深め、
協力に努めます。

事業者



理解・協力に努めるとともに、
必要かつ合理的な配慮を行います。

市が取り組む主な施策－7つの柱

01 知ってもらう

普及・啓発

02 使いやすくする

利用しやすい環境整備

03 情報を届ける

情報の提供・取得

04 人を育てる

支援者の確保・養成

05 子どもを支える

障がい児と保護者等
への支援

06 災害から守る

災害時の情報取得
・利用支援

07 必要なことに取り組む

その他、市長が必要と
認める施策



みなさんの声を聞きながら進めます。
市は、障がい者や関係者の意見を聞く場を定期的に設けるよう努めます。

令和9年4月1日施行

※この資料は条例の内容を分かりやすく紹介するための概要版です。